

平成 23 年度 学校自己評価表

(計画段階 ・ **実施段階**)

福岡県立須恵高等学校長 印

36

学校経営方針				評価
学校教育目標	人間尊重の精神を基調として、自ら学び、自ら鍛え、心身ともに逞しく、国際感覚を備えた豊かな人間性を有し、平和で民主的な国家・社会の発展に寄与できる人間を育成する。 ⇒ 本校の教育の基礎・基本である「五省」を土台に、高い志を持ち、確かな学力と豊かな人間性を身に付けた生徒を育成するとともに、特色のある学校文化を創造する。			A
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
創立30周年に向けて、教育環境におけるハード・ソフト面はさらに充実した。生徒達の意識も徐々に高まっている。今後は、「五省」をさらに意識させ、実践させる中で、文武両道、基礎学力の確立、第一希望進路の実現、部活動の活性化のための努力が必要である。	1 須恵高生としての誇りと自覚を促し、五省を土台に基本的な生活習慣を確立させ、礼儀や倫理観を持たせるとともに、生きる力を育む。	(1) 第一希望進路実現を目指し、基礎学力向上とわかる授業の実践のため、英語・国語・数学で3年間の指導を見通した「須恵プラン」の作成と年度内完成を目指す。		
	2 わかる授業を柱として、予習・復習等、家庭学習の習慣化を図り、基礎的・基本的な学力と技能の向上を図る。	(2) 新学習指導要領実施に向けて、教育課程の検討を進める。		
	3 進路指導の充実により、生徒の志を高め、第一希望進路実現を図る。	(3) オーストラリア語学研修を8月に実施し、国際感覚を養う一助とする。		
	4 人間の尊厳や人権尊重についての自覚を高め、差別やいじめをなくしていく意志と実践力を持った生徒を育成する。	(4) 人権教育HR(年3回)と推進委員会を中心とした指導案の作成、および講演会を実施する。		
	5 学校行事や部活動・生徒会活動を推進し、学ぶ喜び・達成感・厳しさ等、総合的な人間形成を推進する。	(5) スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターを活用し、職員研修を実施する。		
	6 創立30周年に向けた積極的な広報活動により、父母教師会・同窓会・後援会・地域・中学校・小学校・塾との連携や交流を促進し、学校の活性化を推進する。	(6) 部活動生への講話と集会を実施し、部活動生としての心構えや高い志を培う。		
		(7) 「須恵高ニュース」の発行(年3回)と全職員による中学校訪問や、出前授業の実施を含めて、本校の活動を地域へ発信し、理解と信頼を得る。その上で中学生1日体験入学の参加者を昨年よりも70名増加させる。		
		(8) 校則検討委員会を学期に1回は開催し、生徒に対して全教職員で統一した指導ができるようにする。		
		(9) 衛生委員会を学期に1回は実施し、教職員の健康と職場の環境面について検討する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
教 務	授業規律の確立	チャイムと同時の始業、授業開始・終了時の挨拶を徹底させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律については、クラス間や教員間の差があり徹底されていない場面が見受けられた。教員側が共通認識を持ち、指導を継続・徹底していく必要がある。 ・日頃の授業参観はなかなか進まなかった。研修部が企画した授業参観月間や研究授業週間により参観する程度であった。まずは学事部が授業を参観することで、学年の授業や生徒の実態を把握し、今後の指導につなげようとする。 ・出席状況については、1学期と比較してかなり改善してきた。担任・副担任や学年と家庭との連携した指導が浸透してきたためであろうと思われる。ただ、学年による差が大きく、教員側の生徒や家庭との関わり方や指導に対する意識の改善も求められる。 ・教育課程については、2学期前半のうちに運営委員会までは協議が済んでいたが、職員会議での協議が1月になってしまった。平成25年度入学生の実態については遅くとも2学期前半までに協議できるようにする。
		積極的な授業態度など意欲的に学習に取り組む姿勢を育成する。	C	
	授業内容の充実	予習・課題等の指導の徹底と、その指導を通じた授業に臨む姿勢の育成を図る。	B	
		学習環境を整備する。	B	
	学習習慣の定着 (自主学習時間:2時間以上、追調査対象:各学年10名以内)	3年間の指導を見通した「須恵プラン」の作成・検証を進める。	B	
		教科会議等における授業内容・方法の検討を行う。	C	
	出席状況の把握と改善 (年間出席率98%以上、退学・転学者計10名以内)	授業改善アンケート(7月)を活用した授業内容の改善と活用方法の検討を行う。	B	
		調査問題の内容と平均点の適正化(教務規定の遵守)を図る。	A	
	教育課程の検討	日頃からの授業参観を奨励し、参観することによる授業方法の工夫・改善を進める。	C	
		予習・復習・課題等の指導の徹底等、家庭学習と授業との連動を図る。	B	
企画管理	各種行事等の早期企画・立案	学習時間調査(年4回)による学習習慣の把握と指導を行う。	B	
		教務自学セミナー(考査前:年5回)を実施する。	A	
	PTA・同窓会・後援会との連携	入室許可証を用いた遅刻等の生徒の状況把握と指導を行う。	A	
		家庭と連携した基本的な生活習慣の確立に向けた指導を行う。	B	
		家庭訪問、面談、保護者会(学期末)等、学年と連携した遅刻・欠席生徒に対する取組を実施する。	B	
小学生との交流会の活性化	生徒の進路希望等、本校の実態に即したカリキュラムの作成・検討を進める。	B		
	(平成24年度入学生:1学期中、平成25年度入学生:9月中)	B		
教育環境の整備	式典等の実施要項は1ヶ月前、その他は2週間前までに提示し、関係部と連携しやすくする。	A		
	PTA総会と進路講演会などを同時開催し、出席率向上を目指す。	B		
	PTA各委員会行事の企画を支援する。	A		
	PTA役員会で学校の様子等報告する機会を設ける。	A		
	同窓会、後援会との意見交換を積極的に行う。	B		
	実施要項を岳城祭後に提示し、生徒への事前指導を綿密に行う。	A		
	地域、PTA、生徒会、全職員の連携を強化する。	B		
	新聞社等を通じて地域へのPRに力を入れる。	C		
	奨学金について学年別に分かりやすく案内する。	A		
	整備の必要な箇所を毎月調査し、関係部と連携しながら改善に努める。	B		

広 報	教育内容の周知	中学校訪問(年に4回)、塾訪問、中学生体験入学(10月1日実施)などを通じて、本校の教育への理解を深める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は全職員であったり、本校の教育活動について広報活動を展開したが、中学校の行事等を把握した上での効果的な活動が十分にできなかったことが課題である。 ・次年度30周年を迎える本校の取り組みとして、新制服、オーストラリア語学研修、グラウンドの照明、弓道部の練習場完成等がある。こうした情報に加え、進路実績向上に向けた取り組み、部活動実績について広く発信し周知させていくことも課題である。
		中学生体験入学に250名以上(うち、糟屋郡内中学校は200名以上)の参加を働きかける。	C		
		須恵高ニュース(年3回作成・配布)、パンフレット、ポスターなどの広報資料の充実を図る。	B		
協力体制の確立	校内における広報活動の周知を図る。	B	B		
	PTA広報委員会(年16回程度実施)との情報交換を活発化し、PTA会報「岳城」(年3回発行)の支援を行う。	A			
	部活動実績や進路実績に関して、効果的に発信する。	B			
情報の公開	生徒会活動やボランティア活動、学校行事についてマスコミに働きかける。	B	B		
		B			
生 徒 指 導	挨拶、時間厳守、適正な言葉遣い、マナーの向上などの指導を通して基本的な生活習慣を確立する。	毎月始めに重点目標を設定し、共通理解を図り指導にあたる。	A	B	
		風紀検査(年8回)の実施、再検査の徹底により違反者を0にする。	B		
		登・下校指導を実施する中で、交通マナーの向上を図り、地域からの苦情0を目指す。	B		
		HR等で規範意識について考えさせ、特別指導件数を20件以内、人数を30人以内にする。	B		
		非行防止教室(12月)を実施する。	A		
		生徒の5分前行動を定着させるため、教員が5分前に、教室や集合場所に赴き指導する。	B		
	部活動入部率、70%以上、そのうち文化部加入率20%以上を目標とする。	生徒会による挨拶運動を、年に2回以上実施する。	A	A	
		部活動紹介、部活動激励会、壮行会等の実施により、部活動に対する意識の高揚を図る。	A		
		顧問会議を学期に2回以上開催し、共通理解と部活動間の連携を図る。	A		
	他校との交流や広報活動を積極的に行い、生徒会活動を活性化させ、生徒達の力で学校をよりよくする動きに繋げる。	部長会を必要に応じて実施し、共通理解と協力体制を確立する。	B	A	
		部活動生徒の集いを学期に2回実施し、生徒の意識の向上を図る。	A		
		終礼の終了時間の厳守、終礼後10分以内の更衣、準備の徹底による部活動の時間確保を目指す。	B		
	安全指導を通して社会規範の理解と安全・防犯意識の高揚を図る。	各種専門委員会を学期に1回以上開催し、委員会活動の活性化を図る。	A	B	
		生徒会執行部の定例会議を週に1回実施する。	A		
		生徒会宿泊研修の内容の充実を図る。	A		
ボランティア・奉仕活動を計画的に実施する。	2校以上の他校の生徒会との交流を実現する。	A	A		
	2校以上の他校の生徒会との交流を実現する。	A			
	2校以上の他校の生徒会との交流を実現する。	A			
自主的・自発的な清掃活動と環境美化意識の啓発	安全指導を徹底し、通学路の違反者を0にする。	B	B		
	危機管理マニュアルを点検し、緊急時の対応を教員間で共有する。	C			
	交通安全講話(6月実施)の内容の充実により、交通安全についての意識を高める。	A			
生徒の心身の健康・安全に関わる情報提供と組織的な連携の強化	交通安全点検を年2回実施する。	A	A		
	生徒会による呼びかけにより、ボランティアに関心を持たせ、参加者の増加を図る。	A			
	地域行事への参加やボランティア活動を各部活動毎に計画し、実施する。	A			
保 健	健康診断結果について教育活動上必要な情報の提供と生徒への事後指導を実施する。	4月の生徒指導統一HRを通じたゴミの分別及び廃棄要領の周知と校内美化を徹底する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内にペットボトルや空缶の放置が目立つ。生徒一人一人の意識を高めるため、美化委員会などを通じて呼びかけやポスター掲示など啓蒙活動を行いたい。 ・後期より清掃リーダー制を導入した。生徒自らの手で清掃に取り組んでいくため、リーダー制の運用方法の工夫、改善を行っていきたい。 ・保健委員会の活動は岳城祭での研究発表や保健便りの発行、石鹸の補充、研修会への参加など活発に行うことができた。次年度も継続して行う。 ・中高連絡協議会、拡大学年会は予定通り行うことができた。生徒の情報を共有することで生徒指導、教科指導の一助となっている。また、年間11回のカウンセリングも予定通り実施できた。次年度も継続して行いたい。
		美化委員会・生徒指導統一HRを通じた古紙回収方法についての確認と徹底を行う。	B		
		健康診断結果について教育活動上必要な情報の提供と生徒への事後指導を実施する。	A		
	保健室利用者状況の分析と職員への情報提供を行う。	A			
	行事前の校医による健康相談、性と心の健康相談を実施する。	A			
	心身の健康安全に関する内容を記載した年12回の保健だよりの発行を行う。	B			
スクールカウンセリングや個人面談等、教育相談で得た情報の共有	新入生の情報交換のための中高連絡協議会(中学校)訪問(入学前3月～4月)を実施する。	A	A		
	個人面談時間を確保し、学期に1回、年間3回の個人面談月間を実施する。	B			
	個人面談などで得られた情報を職員間で共有するため年間3回拡大学年会を実施(5月・10月・2月)する。	A			
年間11回のスクールカウンセリングを実施する。	B	A			
特別支援教育を推進する。	A				

図書	身近な図書館を目指し、図書館利用者数と本の貸し出し数の増加 広報活動の活性化 効果的な選書の実施 図書委員会活動の活性化 読書指導・利用マナーの指導 文化・芸術に親しむ態度の涵養	図書館内の書架の配置や掲示物を工夫し、開放的な雰囲気を作る。	B	B	A	・貸し出し冊数は減ったが、入館者は増えた。図書館を憩いの場として利用している生徒が増えたようだ。今後は、新刊案内や図書館報等を利用しながら、図書委員による呼びかけを強化して貸し出し冊数の増加につなげたい。 ・生徒による書店取次店への訪問は毎回好評で、生徒も意欲的に選書を行っている。また図書館の貸出冊数の伸びにも貢献しているため、今後も続けていくことが望ましい。 ・芸術鑑賞行事は、作品を選んだ後は学年に任せたが、十分な事前学習によって興味関心をもった生徒も多く、意義のある行事となったようだ。 ・岳城祭の企画・準備は後期から始めておく必要があったが、今年度は遅れた。内容のあるものに仕上げる為にも、年度末からでも準備を始めたい。
		各クラスにおいて図書委員による呼びかけを積極的に行う。	B			
		朝読書等本の貸し出しを推進し、年間4000冊以上の貸出冊数を目指す。	A			
		館報「ハビルス」を年5回(5・7・10・12・2月)発行する。	A			
		掲示板「クローバー」の年4回(5・8・10・1月)更新を実施する。	A			
		生徒による問屋訪問を年3回(5・7・11月)実施する。	A			
		興味関心の高い本・看護コースや小論文対策用図書の整備を行う。	B			
進路指導	進路教育 進路実績の向上 進学指導の充実 進路情報提供の充実	HR・総合的な学習・学年集会を活用して、模試分析結果や進路情報を提供する。	A	A	A	・具体的な数値目標(福岡大学 100名)をより明確にして、学校全体で指導できる指導体制と、雰囲気づくりを行いたい。そのためには、進路部会を作業部会にせず、企画部会として機能するように、入試・模試分析等を行い、各学年に還元していきたい。 ・模試分析は、実施主体の模試担当者を招聘し、分析会を開催するとともに、学年集会等で生徒に還元する機会を設ける。 ・本校生徒が多く受験する、上級学校の入試問題を分析した冊子を発行する。 ・1、2年生が実施する職業・アカデミー体験等は単発行事で終わらせることなく、3年間のキャリア教育の一環として継続的に、取り組ませたい。 ・多様化する推薦入試の現状を研究し、本校生徒の実態をすり合わせ、より効果的な進路指導を行う。
		外部講師の招聘やアカデミー・職業探索講座等の実施支援を行う。	A			
		オープンキャンパスの情報提供や進路のしおり等の合格体験記を活用する。	B			
		校内集中学習会やチャレンジセミナー等の積極的な運営支援を行う。	A			
		進路目標数を達成のため、成績分析を行い、特別講座や課外を実施する。	B			
		小論文指導・模試・添削等の各学年における計画的実施を促進する。	B			
		入試結果や模試成績分析を行い、その結果を生徒・教師に提供し、活用していく。	B			
情報管理	校務用パソコンや可搬型パソコン、新LANの適正な管理に努める。 生徒の個人情報の管理を徹底する。 可搬型パソコンやプロジェクター、インターネットの有効利用を推進する。	外部講師の招聘やアカデミー・職業探索講座等の実施支援を行う。	A	A	A	・今年度当初の設定、運営等について、一部混乱、トラブルが発生したので、次年度当初は今年度の反省を活かし、円滑に進めていきたい。 ・新HPが完成し、円滑に運営し、軌道に乗りつつある。更新頻度がやや少なかったので、次年度は頻度を増やして、アクセス数を増やしたい。 ・成績処理に関して、年度中常時、変更等運営を行ってきたが、一部混乱、トラブルが発生したので、次年度は早めに着手し、正確な処理に努めていきたい。 ・著作権や個人情報の管理についての指導がほとんどできなかったため、次年度は研修会等企画して、指導に努めていきたい。
		進学指導の充実	A			
		進路情報提供の充実	A			
		ファイナンスシステムの利用促進を含め、その活用法の職員研修会の実施する。	B			
		就職情報連絡会や外部で実施される入試研究会の参加を促進し、その情報提供に努める。	A			
		新しく来られた先生方に校務用パソコンを配付し、設定を行う。	A			
		専門業者と協力しながら、パソコンや新LANのメンテナンスに努める。	A			
研修	教科指導力の向上のための授業改善 校内研修・校外研修の推進(年間4回以上の職員研修会) 人権教育、特別支援教育の充実(年間3回の人権教育HR) セミナーハウスを利用した生徒研修の充実	専門業者および職員と協力しながら、新しいホームページの運営を円滑に行う。	B	B	A	・全職員で、1学期中に、授業規律の確立と学習環境の整備を徹底する。 ・解決すべき課題をさらに明確にし、分掌、教科、学年と連携して力を結集し、課題解決に当たることができるようにする。 ・教員一人一人が、解決すべき課題を見つけ、意欲的に研修に取り組むことができるよう授業参観月間への参加を徹底し、授業研究大会の実施内容をさらに工夫する。 ・教育センターを始め、外部での研修、講演会等に関する情報を周知し、積極的参加を促す。 ・学級合宿に関して、生徒指導員に対する指導をさらに充実させ、よりレベルの高い合宿を実施できるようにする。 ・1年間の研修の成果を次年度に生かすことができるようさらに計画的に研修を進め、中間報告・最終報告ができるようにする。
		貸出使用簿を作成して、情報機器の適正な管理を行う。	B			
		サーバーへのアクセスをパスワード化し、個人情報を管理する。	A			
		考査や学期、学年成績などの正確な処理に努める。	B			
		授業や生徒の調べ学習、進路検索などに左記の機器などの活用を推進する。	A			
		著作権や個人情報の管理についての指導を行っていく。	C			
		インターネットのセキュリティ問題について、生徒職員の意識を高める。	B			
教科指導力の向上のための授業改善	「基礎・基本を徹底させるための授業方法の工夫・改善」を本年度のテーマとして研修を進める。	A	B	A	・全職員で、1学期中に、授業規律の確立と学習環境の整備を徹底する。 ・解決すべき課題をさらに明確にし、分掌、教科、学年と連携して力を結集し、課題解決に当たることができるようにする。 ・教員一人一人が、解決すべき課題を見つけ、意欲的に研修に取り組むことができるよう授業参観月間への参加を徹底し、授業研究大会の実施内容をさらに工夫する。 ・教育センターを始め、外部での研修、講演会等に関する情報を周知し、積極的参加を促す。 ・学級合宿に関して、生徒指導員に対する指導をさらに充実させ、よりレベルの高い合宿を実施できるようにする。 ・1年間の研修の成果を次年度に生かすことができるようさらに計画的に研修を進め、中間報告・最終報告ができるようにする。	
	本年度の研修テーマに沿った研修になるよう、定期的に教科別研修会を実施する。	B				
	保護者、地域の学校に授業を公開し、多面的に授業評価を行う。	B				
	職員から広くテーマを求め、ニーズに即した校内研修を実施する。	B				
	人権教育、特別支援教育に関する職員研修を企画し、実施する。	A				
	研修に関する情報を周知させ、教育センター等の研修への参加を積極的に促す。	B				
	職員の健康増進、団結力を高めるための研修を実施する。	A				
校内研修・校外研修の推進(年間4回以上の職員研修会)	人権教育HRの内容の検討を深め、工夫・改善に向けての情報整理、協議を行う。	A	A	A	・全職員で、1学期中に、授業規律の確立と学習環境の整備を徹底する。 ・解決すべき課題をさらに明確にし、分掌、教科、学年と連携して力を結集し、課題解決に当たることができるようにする。 ・教員一人一人が、解決すべき課題を見つけ、意欲的に研修に取り組むことができるよう授業参観月間への参加を徹底し、授業研究大会の実施内容をさらに工夫する。 ・教育センターを始め、外部での研修、講演会等に関する情報を周知し、積極的参加を促す。 ・学級合宿に関して、生徒指導員に対する指導をさらに充実させ、よりレベルの高い合宿を実施できるようにする。 ・1年間の研修の成果を次年度に生かすことができるようさらに計画的に研修を進め、中間報告・最終報告ができるようにする。	
	全ての教育活動を通して、人権教育、特別支援教育に対する生徒の意識の高揚を図る。	B				
	班会議、学年会議等を含めた職員研修を充実させる。	A				
	2年生は1泊2日の学級合宿を行う。	A				
	1年生は2泊3日の学級合宿を行う。	A				
	教職員へのガイダンスや指導生徒のオリエンテーションを充実させる。	A				
	2年生は1泊2日の学級合宿を行う。	A				

学 年	第一学年	基本的生活習慣の確立 ・年間皆勤者数180名以上	あらゆる機会を通じて時間の厳守や挨拶、適切な言葉遣いを励行させる。 欠席者・遅刻者に対する指導を、定期考査期間を中心に年間7回行う。 身だしなみに関する指導は必ずその場でを行い、その後も学年独自に継続を行う。	A A A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守や身だしなみについては、入室許可証発行ファイルの作成や遅刻が目立つ生徒などに対する学年独自の取り組みを行うことができ、特に3学期になって遅刻・欠席者が大幅に減少し、一年間皆勤者も50%を超えた。しかし、一部の生徒に遅刻欠席が集中しており、この生徒に対する基本的な生活習慣の定着が課題として残った。 ・課題や小テストへの取り組みが不十分な生徒に対する指導は教科担当者を中心に行われていた。さらに、学年全体での組織的な指導を徹底することで基礎基本の定着を図りたい。 ・進路指導においては、担任を中止とした個別面談が徹底されていた。その結果、ひとりひとりの生徒の進路上の課題や相談に適切に対応がなされていた。次年度は、進路別のクラス編成にもなり、さらに細かい進路指導を実施し、生徒の進路実現意欲を向上させることが課題である。 ・部活動加入率が目標の70%を大きく上回り、80%に近い数値を残した。次年度は、勉学との両立を図りたい。 		
		学習習慣の確立	入学直後に教科オリエンテーションを計画的に実施する。 4月中旬に、黒板や掲示物の管理、荷物の整理、清掃の徹底などにより学習環境を整える。 授業開始前の授業準備および黙想後の授業開始などによって授業規律を確立する。 教科担当だけでなく、担任等も協力し課題提出の徹底を図る。 予習や小テスト等への取り組みが不十分な生徒に対する指導を徹底する。	B A A B				
		進路意識の高揚	職業探索活動を年間2回実施して、職業・進路決定について考える機会を設ける。 総合学習の時間やHR活動を活用して、進路講演会を年間3回以上実施する。	A A				
		良好な人間関係の構築	学校行事や部活動への積極的な参加を促し、部活動入部率70%以上を目指す。 学年集会や面談、昼休みの巡回(声かけ)等を通じて、自己理解および他者理解の精神を育む。	A A				
		職員間の連携強化	各業務分担の明確化、組織的対応、担任会や学年会を通じた調整を行う。 担任間、教科担当者と担任間、学年と部活動顧問間の情報交換を日常的に行う。	B A				
		第二学年	「行動に責任を持ちます」の徹底	あらゆる場面での5分前行動を徹底する。 挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を徹底する。			B B	B
	年間皆勤者140名以上、課外出席率96%以上		遅刻欠席者指導を徹底と保護者との連携を図る。 出席皆勤生徒を学期毎に表彰する。	B A				
	リーダーとしての資質を持った生徒の掘り起こしと指導		学校行事、生徒会役員、セミナー指導員等の掘り起こしとその指導の充実を図る。	A				
	進路に対する意識の高揚		大学進学への意向向上を目的としたアカデミー体験活動と校内での大学講義体験を関連させた指導の工夫を行う。 学習目標の明確化、学習意欲の向上を図るため、土曜セミナー、ACEテストを実施する。 オーストラリア海外研修を活用した進路意識の向上の指導を行う。 放課後課外における習熟度別授業の実施等、成績上位者を主眼とした指導を実施する。	A A A B				
	学習指導の充実		入室許可証発行ファイルを活用し、授業に臨む姿勢の徹底を図る。 各教科、学年、教務の連携により課題量の調整と提出の徹底を図る。 学年独自の学習記録ノートを活用した指導を行う。 職員間の連携を強化し、持ち帰り指導の徹底を図る。	B B B B				
	第三学年		基本的な生活習慣の定着による社会性と規範意識の確立 (年間皆勤者数130名以上)	欠席・遅刻・怠学の状況や原因を随時把握し、家庭との連絡を密に行う。 欠席や遅刻の多い生徒への指導を学年で連携して定期的に実施する。 挨拶、言葉遣い、身だしなみについての指導を徹底する。	A A A		A	
		学習習慣の確立	予習・課題を中心とした自学習習慣を定着させるための指導を徹底する。 授業を大切に、その理解に努めようとする姿勢を育成する。 自学室や教室環境を整備し、放課後や休日の自主学習を奨励する。	A B A				
		進路意識の高揚と学習意欲の喚起 (福岡大100名、西南大20名、国公立大15名以上合格)	進路に対する意識を高めるために校内模試(7月・9月・10月)を実施する。 個人面談を日常的に行い、教師と生徒の間の信頼関係を構築する。 総合的な学習の時間を中心に進路コース別の個別指導を計画的に行う。 受験学習会(8月、12月)を実施して、集団で学びあう雰囲気づくりを行う。	A B B A				
		自主性・リーダーシップの育成	岳城祭や体育祭に向けてリーダーの発掘と育成、支援を行う。 学年が一丸となって行事に取り組もうとする姿勢を育てる。	A A				